

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	349200031
法人名	社会福祉法人 口和福祉会
事業所名	グループホーム口和
訪問調査日	平成21年12月21日
評価確定日	平成22年2月20日
評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3492100031
法人名	社会福祉法人 口和福祉会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム口和
所在地 (電話番号)	広島県庄原市口和町永田413番地 (電話) 0824-89-2700

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成21年12月21日	評価確定日	平成22年2月20日

## 【情報提供票より】(平成21年12月2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年3月1日	
ユニット数	1 ユニット	9人
職員数	15人	常勤 4人, 非常勤 12人, 常勤換算 10.8人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> 改築
建物構造	木造り 地上1階建1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000円	その他の経費(月額)	実費(高熱水費500/1日)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	
	又は1日 1,380円			

### (4) 利用者の概要(12月2日現在)

利用者人数	9人	男性	4人	女性	5人
要介護1	1人	要介護2	2人		
要介護3	4人	要介護4	1人		
要介護5	0人	要支援2	0人		
年齢	平均 87.4歳	最低	80歳	最高	100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	庄原赤十字病院, 庄原市口和歯科診療所
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム口和(以下、ホーム)は、庄原市口和町の中心部にある「口和福祉村」の一角にあります。福祉村の中には、法人の運営する特別養護老人ホームやケアハウス、自立援助ホームや市社会福祉協議会の地域センター、診療所があり、地域の福祉拠点ともいえる場所です。近くには郵便局や商店街があり、便利さと静けさの両方が満たされている恵まれた環境の中にあります。法人の方針により、介護未経験者には介護技術の基礎を身に付けるため、ホームヘルパー講習会に事業所負担で受講させるなど人材養成の体制も充実しています。また、地域活動への参加や地域との交流には、特に重点を置いて取り組んでおられます。開設後2年が経過し、グループホームの存在が徐々に地域に認知されるようになってきています。ホームでは、掃除や散歩、食事作り、畑仕事など、利用者が持つ力を存分に発揮する場面が多く工夫されており、職員は下準備やお膳立てといった黒子の役割を取りながら、利用者が生き生きと生活できるよう支援しておられます。また、雑草作りやしめ縄作りなど、地域と一体となって、これまでの生活に近い環境作りに取り組み、利用者は、穏やかに充実した日々を送っておられます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、①理念の共有、②運営推進会議を生かした取り組み、③個人記録と業務日誌の充実・整理、④水分・食事摂取量の記録及び健康管理などが課題となっていました。その後、課題のすべてにおいて改善に向けた具体的な取り組みが行われていました。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価は、管理者と計画策定担当者が中心となって行い、全職員に聞き取りを行いながら自己評価をまとめられました。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に一度、運営推進会議を開催しています。利用者、利用者代表、地域住民代表、行政等から構成されたメンバーで運営されています。会議の中で、家族から出された「本人の生活の様子を知りたい」という要望は、行事や生活の様子を写真に撮り、家族が一目で分かるようにする工夫につながりました。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に、意見や不安に思っていることなどを聞き取るようにしておられます。また、家族の来訪時には、口頭で日々の暮らしぶりを伝えたり、生活の状況をビデオで紹介したりされています。家族から、本人の写真を送って欲しい等の要望や、「これまで家族一緒に写真がないので撮ってほしい」という声に即応するなど、家族の声を大事にする姿勢が好評を得ています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の農業集団「永田ファーム」との交流が行われています。今年は、米収穫後のワラを分けてもらい、ホームでしめ縄作りが行われました。利用者の反応を見て、来年は地域の子供と一緒に取り組む計画に発展しつつあります。他にも、地域の盆踊り大会や健康福祉祭、小学生との交流などへ積極的に出かけ、地域の人たちと交流する機会を作っておられます。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者本位」「力の発揮」「馴染みの環境」「積極的な地域参加」「ケアの継続」の5つの視点を中心に作りあげられています。特に、「積極的な地域参加」については、力を入れて取り組まれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、言葉としてだけでなく、散歩や買い物などの実践を通して理念を共有、実現しようとされています。また、日々の業務のさまざまな場面や職員同士の話し合いの中で理念を実践しようと取り組んでおられます。		5つある理念の中から特に地域への参加に重点を置いて取り組んでおられます。その成果は、ホームの存在が徐々に地域に認知されるようになってきていることで測ることができます。今後もぜひ継続して取り組まれることを強く希望します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の農業集団「永田ファーム」との交流が始まっています。今回は、米収穫後のワラを分けもらい、しめ縄作りに取り組まれました。利用者にも好評で、来年は地域の子どもと一緒に取り組む計画に発展しつつあります。「モーモー祭」や「健康福祉祭」へ出かけたり、小学生との交流をしたり盛んに交流されています。ホームのことを知る人がだんだんと増えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員の気付きや聞き取りをまとめて管理者が中心となって作成されています。また、前回の評価終了後、居室担当の導入を試みたり、アセスメントや記録用紙の変更を行ったり、具体的な改善が始まられています。	○	自己評価及び外部評価で明らかになった課題を整理され、着実に改善に取り組まれています。今後も継続して取り組まれることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議が開催されています。会議は、利用者、利用者代表、地域住民代表、行政等から構成するメンバーで運営されています。本人の写真を送ってほしい等の希望や、「これまで家族一緒に写真を撮ったことがない」という家族には、一緒に写真を撮るなど、即応の姿勢が好評を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームでは、認知症サポーター養成研修修了者が2人います。地域住民に認知症に対する理解を深める取り組みを通じて、ホームへの理解も深まるため、ホーム職員と行政担当者が一緒になって講座開催に向けた話し合いを行う計画があります。	○	ホーム利用者に対する理解や認知症を持つ人たちが暮らしやすい町づくりのためにも、認知症サポーター養成講座を開催されることを提案します。町内の研修修了者と話し合うとともに、市保健師等との連携を試みることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に機会を見つけて、口頭で日々の暮らしぶりを伝えたり、生活の状況をビデオで紹介したりされています。また、法人の機関紙にグループホームの写真や記事を掲載し、さらに利用者の暮らしぶりをきめ細かく伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から「冬場でも毎日少しずつ体を動かす機会を作って、運動をさせてほしい」との声を受けて、雪の降る日などはホールや隣接する特養内の歩行や、体操を行っています。また、家族会に併せて相談しやすい状況を作り出しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人員配置について「馴染みの関係の継続」という点が十分配慮されており、これまでに必要以上の異動はほとんど行われていません。新しい職員に対しては、利用者と職員が早く顔なじみになるよう利用者へ紹介を行っています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は、職員の研修受講を推奨する姿勢を持っています。介護未経験者には、ホームヘルパー講習会の受講を奨励し、現在2人が受講中です。経費は法人が負担しています。全職員が介護技術の基礎を身につけることができるよう研修機会を確保しています。また、法人内の研修や月1回のホーム全体研修会があります。新人職員は、3か月間は1対1での指導を受けています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がこれまでに培った人脈やリーダー研修で知り合った他のグループホーム長などから情報を得たり、グループホーム協会への加入を検討したり、交流の機会を作り出す取り組みが行われつつあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、家族と一緒に見学してもらうよう勧めています。居室の様子や、他の利用者が食事の準備をする様子を見たり、一緒に食事をとったり、徐々にホームの雰囲気に慣れてもらいながら、入居できるように工夫しておられます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に新聞を読んだり、地域の人からもらった野菜の食べ方を教わったり、コミュニケーションを大切にしておられます。中庭や施設外の畑で大根やサツマイモの植え方やほり方を利用者から教わっています。「お姉さん、おにいさん」と親しく呼び合い、家族と一緒に過ごすように毎日暮らしています。体調を崩して休んでいる職員を心配する利用者もあり、職員も利用者支えられながら毎日を過ごしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「話し相手がいない」と言う利用者には、職員と一緒にお茶を飲んだり、昼食を食べたりして昔話を楽しんでいます。「田んぼが気になる」とつぶやいた利用者には、散歩を兼ねて職員と一緒に見に行ったり、お墓参りや、住んでいた家を見に行ったり、できる限り希望が叶えられるよう配慮しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族からの聞き取りをもとに、計画作成担当者が長期目標、具体的なサービス内容を盛り込んだ介護計画を作成します。その後、ケアカンファレンスで協議・調整を行うなどして、利用者本位の介護計画を作成されています。センター方式を取り入れたり、個人日誌や業務日誌を整理し、介護計画に基づいたチームケアに取り組んでいます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的見直しを行うほか、本人を取り巻く状況の変化やADL低下などがあった時に適時見直しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームには、多目的に利用できる部屋があり、本年も大雨のため地域住民からの緊急避難の申し出を受け、3泊4日で宿泊場所を提供されました。 また、この部屋は、職員の子どもの一時預かり所としても利用されています。利用者も子どもの面倒を見ることもあり、本人が持っている力を大いに発揮できる機会になっています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望に添って、従来のかかりつけ医・診療所との連携が取られています。また、協力病院からの往診や休日対応の支援も得ながら、適切な医療が受けられるようにしています。家人の付き添いで総合病院の受診も行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「地元で最期まで居させてほしい」「ホームで最期を看取ってほしい」という要望はありますが、主治医の往診が難しい場合もあるなど、終末期・重度化の対応にはいたっていません。重度化した場合や終末期のあり方については、家族やかかりつけ医との話し合いで方針を決定するようにしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース記録やその他の個人情報には鍵の掛かる保管庫に入れてあります。また着替え、入浴、トイレといった場面では、特にプライバシーに配慮して対応するよう心がけています。一方で、あまり他人行儀になり過ぎないように、また失礼な言い方にならないように、適度な距離を保つ関わりを工夫しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯物を干したり、畑仕事や買い物、料理の下ごしらえなどをしたり、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援が行われています。ゆったりとした日課の中で、利用者がやりたいことができるように希望に沿って、声かけや誘導を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事のほとんどは、利用者の手によって作られています。野菜の皮むき等の下ごしらえや味付け、盛りつけ、配膳、洗い物など職員は利用者が力を発揮できるように、主役になるように支援しています。また、利用者の「カップ麺をお昼ご飯で食べてみたい」との希望があった時は、みんなで食べたり、そば打ちの特技を持つ地域住民にホームに来てもらい、実演・食事会を行ったり、食事を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回のペースで入浴日を決めています。本人の希望によっては、毎日入浴されるなどの対応もしています。冬場は、体が冷えないよう、午後から夕方にかけて1対1での入浴を行っています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業では畑に蒔く種を利用者で決め、年々野菜の種類を増やしています。2年前に利用者が椎茸の菌をホダ木に植え(駒打ち)、今年はたくさん収穫がありました。利用者にとっても職員にとっても楽しみが増えつつあります。毎朝の掃除は、できる利用者3~4人が職員と一緒にモップかけなどを行っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩が日課のひとつになっています。また、散歩以外の外出として、昔からの知り合いを訪ねて、敷地内にある特別養護老人ホームや少し離れた場所にある自立支援型ホームに遊びに出かけるなど、目的を持った外出を支援しています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害については、職員全員が理解しており、日中は、玄関も居室も施錠をしていません。夜間は建物の外にある門扉と玄関に施錠が行われます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	玄関前の駐車場を避難場所と決め、隣接する特別養護老人ホーム、ケアハウスとの合同で年2回、避難訓練を行っています。今後は、地域の消防団との消防訓練を行うことを検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏場の脱水予防に備えて、1日の水分量をチェックし、大きめのマグカップを用意し(200cc以上)多めに摂れるよう、水分の確保を行っています。 献立は、冷蔵庫の食材や買い物先の品物を見て決め、隣接の施設の栄養士から献立についての助言をもらうなどの配慮がされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じさせる花が生けられたり、窓から差し込む光を調整したりして、明るく居心地のよい共用空間がつけられています。訪問日には、中庭に作られた雪だるまやホームで飼っている2羽のミニうさぎが利用者の心を和ませていました。季節感をより際立たせるために、普段はシンプルな飾りつけを心がけておられます。散歩に出かけた時に、利用者が摘んできた野の花を生け花として部屋を飾ることもあります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇やテレビ、アルバム、写真立て、家族の集合写真など、利用者になじみのあるものや愛用していた物がたくさん持ち込まれています。 一人ひとりのこれまでの生活様式が尊重された個性的な居室が工夫されています。		



# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 口和

評価年月日 21 年 12 月 2 日

記入年月日 21 年 12 月 2 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 係長 職 氏名 田端 隆士

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

## I 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	利用者本位、利用者が安心して生活が出来る環境づくり、地域への参加などを理念とし活動している。		積極的に地域へ出て小学生との交流、地域の祭りへ参加、駅伝の応援など。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	利用者が安心して生活が出来ているか日々職員同士話し合い理念の実践に取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	理念は浸透していないが、地域へ出ることで利用者の顔を地域の方が覚えてくれるようになった		

### 2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散髪など地域にあるところに行くことで地域の方が声をかけてくれるようになり又学校行事なども誘われるようになった。		地域の方々に気軽に立ち寄っていただけるように努めていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事など参加して地域の方々と交流をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	取り組んでいない		
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の外部評価を受け少しづつではあるが取り組んでいる。	○	ケース記録の整理、
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を実施していろいろな意見が出てきている。	○	意見、要望をいただき改善に取り組んでいる。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	認知症サポーターの実施に向けた話し合いを行っていた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修などを行う機会がなく取り組んでいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	園内研修を行っている	○	今後も研修等を行い防止に努めたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明を行い理解を得ている。	○	利用者、家族から疑問などあった場合その都度、説明している
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の相談、苦情、意見など抽出してサービスに反映できるよう努めている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に家族に報告。もしくは利用者様の通院時変化があれば家族に電話での報告を行っている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議、家族会等で相談会を開いている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を開き意見を聞くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じて行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	昨年より移動はない		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	園内研修や施設外研修などに参加している。	○	今後も研修等を行っていきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	特に行っていない		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	工夫等はしていないが相談、苦情があれば随時聞くようにしている	○	それぞれ声を掛け合って業務に取り組んでいる
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	ケース担当を持ってもらい職員ひとりひとり責任をもって業務に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	電話相談、見学に来られたときに話しを聞く機会を持っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者家族が気軽に相談が出来るようケアマネジャーとも連絡をとりあい家族に対応している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネージャー、職員と話し合いを行い対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設見学を行い対応している		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	楽しみ、悲しみを共有して利用者の気持ちに添えるような関係を築いている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とのコミュニケーションを大事にして家族と共に利用者本人を支えあうよう努めている		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族と話をして利用者様に対しての家族の気持ちを理解してより良いサービスに取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	散歩、ドライブ、地域の行事（小学校の田植え、稲刈り等、駅伝大会応援、地域の祭り）に参加している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が間接的に入り利用者同士のコミュニケーションを援助している		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	併設施設への入所がほとんどでこれまでと変わらず関係を築いている。利用者様を他の施設へ入所された方の面会にいきました		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	おもいおもいの生活を送られています。本人の希望があれば希望に添えるよう検討を行っている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、ケアマネジャーから生活状況を聞き取り行っている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの暮らしを記録し職員で情報を共有できるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人が必要としているサービスを見極め本人、家族、関係者からそれぞれ話を聞いて介護計画を作成している		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況が変化した場合、現状に応じた計画を作成している		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日のケース記録に記入し、情報を共有しながら実践している。		

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の要望に応じてその都度対応している		
----	--	------------------------	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議のときに意見などをいただいている	○	
----	---	------------------------	---	--



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	機会がない為行っていない	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	機会がないので行っていきたい		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力病院があるが、本人または家族が希望する医療機関受診も出来るよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医の受診支援を行っている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設の特養看護師と相談を行いながら利用者の健康管理などを行っている		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関との連絡のほかにも面会などを行っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	終末期による支援は行っていない 体調変化などあった場合は家族、かかりつけ医と話し合い方針を決めている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期による支援などは行っていない		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	情報交換などを行い本人が早くなれてもらえるよう努めている		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	ケース記録などは保管してあり個人情報など取り扱いには気をつけている	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人による意思決定を尊重するように職員にも指導している。本人にわかりやすく説明するように努めている	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	思い思いに過ごしていただいているが入浴日、時間は職員が決めている	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的に散髪などおこなっている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在実施しているそれぞれそのときに役割を持ってもらい出来る力を使ってもらっています。最近の利用者自身から野菜の皮むきなどをしましようかと話される。	○	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	状況に応じて支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	看護師と連携を取り排泄支援に取り組んでいる	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯を職員が決めて入浴をしていただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事、散歩、レクリエーションなど日々楽しんで過ごせるように支援を行っている。最近では利用者自身から野菜をむこうかなどと話される。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はすべて職員が預かっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩などを行い屋外に出ている。自立支援型グループホームなどに遊びに行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族との外出時、外泊時に出かけられたり、車に乗って買い物に出かけるように支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙の支援は行っていない。	○	本人自らではないが職員が郵便物発送時に写真を入れて送るようにしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時心地よく過ごしていただけるようお茶などを出しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を発足しており研修などケアに取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関、居室には鍵をかけずに利用者の皆さんは生活されています	○	夜間は玄関に鍵をかけている。そのほかに敷地内入り口のフェンスにも鍵をかけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	定期的に人数確認を行うようにしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その時々に応じて対応している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	施設内研修、火災訓練などで事故防止に取り組んでいる	○	年3回程度利用者様も参加して火災訓練を行っている。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	施設内研修行っている。	○	救急蘇生法などの訓練を年1回程度消防に来ていただき行っている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	施設内では訓練を行っているが、地域の人達と一緒に訓練などは行っていない	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	契約時などリスクについて説明している	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の体調変化や、異常が発見されたときは、速やかに協力医療機関に受診を行い情報を共有し家族連絡を行っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服用の支援と症状の変化の確認に努めている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	散歩、体操などを行い体を動かすよう取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食時後、口腔清拭を行っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	おやつ、食事以外でそれぞれ好きなお茶などを出している	○	医師・併設施設の栄養士と相談し行っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員を立ち上げており感染症に対する予防、対策に取り組んでいる	○	併設施設と共同で感染防止に努めている
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	安全で、新鮮な食材を使用するように取り組んでおり、調理器具などの消毒を行っている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	特に工夫などは行っていないが玄関の段差をなくしました		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは利用者の皆さんがゆっくりとくつろげるような場を作り居室は利用者が思いおもいに休まれるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にはソファを置き利用者同士で過ごせるようにしてあります。廊下の間には椅子を置いて休めるようにしてある		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には利用者の愛用していたもの、思い出のあるものを持ってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的な空気の入替え、換気をおこなっている	○	感染症予防で1日に数回定期的に換気を行っている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、浴室、トイレには手摺りを設置している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ゆっくりとわかりやすい言葉がけをするよう職員心がけており利用者が安心して暮らせるようにしている		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホーム裏には畑、花壇を作り利用者が楽しんで活動できるようにしてあります	○	新たに中庭に花壇を作り利用者の皆さんと一緒に植え替えなどを行っています。



V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ○ ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある ○ ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ○ ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ○ ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ○ ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が ○ ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ○ ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ○ ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ○ ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ○ ④ 全くいない
98	職員は、生き活きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ○ ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ○ ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらい ○ ③ 家族等の1/3くらい ④ ほとんどできていない

※           は、外部評価との共通項目